

保健指導研究班

班長 川 名 尚

HTLV-1 キャリア妊婦に対する保健指導を行う上に必要な問題点の抽出と HTLV-1 の母児感染予防にどの程度行政が関与するのがよいか、その際の問題点や国のレベルで関与する時に必要となる基礎的な情報の収集を行った。

1. キャリア診断のための検査法

従来より一次スクリーニングのために PA 法、EIA 法が用いられてきたが、これらの方法とくに PA 法で偽陽性の頻度が高いことが問題となってきた。PA 法陽性者の半数近くは偽陽性であると報告されている。この点新しく改良された PA 法では、偽陽性率が10分の1近くに減少することが判った。

確認試験として用いられてきた WB 法にも問題があり、IF 法が現時点では最も信頼性が高いが、判定の客観性やキット化の点が問題として残る。

2. 感染経路

母児感染の頻度としては、安次嶺班員は、母乳群18%、混合群0%、人口栄養群7%、多田班員は、キャリアの母から生まれた児の3.8%に抗体陽性者がみられるとしている。また、夫婦間感染の率はかなり高く、武班員は、キャリア妊婦の16.7%が、夫婦間感染によるものではないかと推定し、森班員もキャリア妊婦の夫の27.3%に抗体が陽性であったと報告している。

3. 行政の関与について

妊婦におけるキャリアの頻度は、地域差が大きい。本班員の研究では、北海道0.76%、宮城県0.53%、静岡県0.33%、三重県0.7%、東京0.91%であったのに対し、宮崎県では、5.16%と圧倒的に高い。ただ、宮城県、北海道などでは、地域によっては、かなり高い頻度でキャリアがみられ、同じ県でも

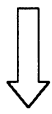
地域差があることが報告されている。

今、将来の ATL 患者の発生を予防すべく、全妊婦についてスクリーニングと陽性者については、確認試験を行って陽性者は断乳を行うとして、その cost benefit を検討するとキャリアの頻度や ATL 発症数には、かなりの地域差があるため、全国一様ではないと考えられる。従ってウイルス汚染地区の各自治体の裁量に委ねられるのがよいと考えられる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



平成元年度厚生省成人 T 細胞白血病(ATL)の母子感染防止に関する研究

保健指導研究班

班長 川名尚

HTLV-1 キャリア妊婦に対する保健指導を行う上に必要な問題点の抽出と HTLV-1 の母児感染予防にどの程度行政が関与するのがよいか、その際の問題点や国のレベルで関与する時に必要となる基礎的な情報の収集を行った。

1. キャリア診断のための検査法

従来より一次スクリーニングのために PA 法、EIA 法が用いられてきたが、これらの方法とくに PA 法で偽陽性の頻度が高いことが問題となってきた。PA 法陽性者の半数近くは偽陽性であると報告されている。この点新しく改良された PA 法では、偽陽性率が 10 分の 1 近くに減少することが判った。

確認試験として用いられてきた WB 法にも問題があり、IF 法が現時点では最も信頼性が高いが、判定の客観性やキット化の点が問題として残る。

2. 感染経路

母児感染の頻度としては、安次嶺班員は、母乳群 18%、混合群 0%、人口栄養群 7%、多田班員は、キャリアの母から生まれた児の 3.8%に抗体陽性者がみられるとしている。また、夫婦間感染の率はかなり高く、武班員は、キャリア妊婦の 16.7%が、夫婦間感染によるものではないかと推定し、森班員もキャリア妊婦の夫の 27.3%に抗体が陽性であったと報告している。

3. 行政の関与について

妊婦におけるキャリアの頻度は、地域差が大きい。本班員の研究では、北海道 0.76%、宮城県 0.53%、静岡県 0.33%、三重県 0.7%、東京 0.91%であったのに対し、宮城県では、5.16%と圧倒的に高い。ただ、宮城県、北海道などでは、地域によっては、かなり高い頻度でキャリアがみられ、同じ県でも地域差があることが報告されている。

今、将来の ATL 患者の発生を予防すべく、全妊婦についてスクリーニングと陽性者については、確認試験を行って陽性者は断乳を行うとして、その cost benefit を検討するとキャリアの頻度や ATL 発症数には、かなりの地域差があるため、全国一様ではないと考えられる。従ってウイルス汚染地区の各自治体の裁量に委ねられるのがよいと考えられる。